

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 151号

## 真の交わりの喜び

小島 十二



昨年来、兵庫県では丹波恐龍の骨盤・肋骨などが発掘され注目をあつめている。恐竜の存在は2億年前からの存在であると聞く。人間は200万年前と。いずれにしても万物の創造者の前に頭をたれ、造り主をあがめ賛美感謝を全ての造られたものと共にささげ、永遠の神の力を受けて精一杯お召しに従って生きたいものである。かつては罪の力のために神から離れ神に背き、神を無視し神の敵となつてむなしい生活をしていたが、御子の十字架の血によってあがなわれ、すべてのものと和解する神の子とされ、神を喜びほめる者と作り変えられました。さらにこの福音により呼ばれ、アシュラムの交わりを与えられ感謝します。

常に喜び、絶えず祈り、すべての事を互いに感謝する。人生勝利の秘訣をアシュラムで確認し、分かち合い、祈りあう各支部アシュラムの成功を祈ります。

エルサレムで復活された救い主イエス・キリストは驚惑する弟子たちに「私が天の父のもとに帰り行くのはあなたがたに良いことだ。私が行けば助け主すなわち真理の御霊があなた方の所に来る。彼はあなた方をあらゆる真理に導く。」と(ヨハネ福音14～16章)、この御霊の約束はエルサレムで待望した弟子たちにペンテコステの成就で終わらず、後の全世界の救いのために約束されたものと確信します。使徒パウロの証する「神の賜う霊は恐れる霊ではなく、力と愛と慎みの霊」(第2テモテ1の7)であると。またアンドリュウ・マーレーは「助け主・聖霊はご自身を私たちの存在の奥に隠し、ご自身を私たちと一つにすること、そして御父と、御子を啓示し、私たちのうちに働く神の偉大な力となることがその任務なのです。」「(内なる生活」p143) 聖霊の直接の働きと支配のない限り、だれ一人キリストに似た気質や力、善意をもつことはできないのも真理です。きたるアシュラムで真の交わりの経験を分かちあい、この終わりの時代に信仰による救いのリバイバルと神の栄光を共に祈る者であります。

(関西支部長・芦屋川教会牧師小島十二)

## 霊 想



あなたがたは

地の塩、世の光

日本基督教団 更生教会

牧師 原田 謙

マタイ 五章一三―一六節

このメッセージの表題は、去る二月十一日(月)、新宿西教会で持たれた、第三九回城北アシユラムの主題でした。しかし私は、真に適切な主題であった。と思つています。と申しますのは、最近の世相を思うからです。昨年一年間を一字で表現すると「偽」の年であったと云われます。確かに、不二家、ミートホープ、白い恋人、赤福等の食品関係の偽装問題、そして更にそれ以前には、姉菌建築士による耐震強度偽装事件等、真に偽りは枚挙に遑がありません。そしてこのことは、聖書の時代を始め、何時の時代も変わらぬことと思われまふ。そのような偽りに充ちた世の中において、イエスはキリスト者に期待を込めて、「あなたがたは、地の塩である」、「あなたがたは、世の光である」と言われたに違

いありません。

さて、キリスト者は教会の塩は勿論でしょうが、何よりも「地の塩」です。塩は腐敗を防ぐものですが、キリスト者はこの社会や国家の良心となつて、その腐敗を防ぐ存在であることを、主は期待し、主に担わせられていのです。それと塩にはもう一つの働きがあります。それは塩は食物に味付けをする、大事な働きがあります。中華料理等も、その旨みは正に塩加減一つで決まる。と云われます。パウロは「今の時を生かして用い、そのの人に対して賢く行動しなさい。いつも塩で味付けられた、やさしい言葉を使いなさい」(コロサイ四章五―六節)と云つてます。すなわち、そのの人に対して、私たちがキリスト者は言動を通して、主のあかしをするように、と勧めているのです。ここで一つ塩について補足しておくことは、塩が腐敗を防ぎ、味付するためには、塩自体は自ら溶けて、消えてその存在を無くすことです。地の塩となるためには、その覚悟が必要です。

次に、光についても「あなたがたは、教会の光である」と云わず、「あなたがたは、世の光である」と云われたのです。偽りに充ちた暗黒の世において、光となると云うことです。パウロは、「あなたがたが責められるところのない純真な者とな

り、曲がつた邪悪な時代のただ中にあって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持つて、彼らの間で星のようにこの世に輝いている」(ピリピ二章一五節)と云つてます。曲がつた邪悪な暗黒の時代の中にあつて、世の光として輝くことを、主は期待しておられるのです。

ところで、「あなたがたは、世の光である」と云われて、ハイ、ハイ、ようござんす。と簡単に、世の光と云われるのでしょうか。否！です。バプテスマのヨハネについて、「彼は光ではなく、ただ、光についてあかしをするためにきたのである」(ヨハネ一章八節)とあります。それに対して、イエスは御自身を、「わたしは世の光である」と言われ、更に、「すべての人を照らすまことの光があつて世にきた」(ヨハネ一章一二節、一章九節)とあります。すなわち、イエスこそは光の根源である「まことの光」であり、また時代、場所、民族、階級等で限定されることのない、「すべての人を照らす」お方なのです。キリスト者はそのキリストの光をあかしするのです。それは恰も、光の源である太陽の光を反射して、こうこうと輝く月に譬えることが出来ます。充分に光りを受けなければ、満月の光の輝きとなり、受けなければ、闇夜となつてしまいます。

それでは一体どうすれば、「世の光」となり得るのでしょうか。それはまず何よりも、まことの光の源であるキリストに、しっかりと結びつくことです。イエスは、「わたしはぶどうの木、あなたがたは枝である。もし人がわたしにつながつておれば、またわたしがその人とのつながつておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしからは離れては、あなたがたは何一つできないからである」(ヨハネ一章五節)と言われました。しっかりと主につながり続けましょう。また光を与えるみ言葉に、固く立ちましよう(詩一一九編一〇五、一三〇節)。また絶えず新しい聖霊の油を給油されて、賢き五人の乙女のように、灯し火をともし続ける者とさせて頂きましょう(マタイ二五章一―三節)。(聖書は「讀み」)

## 証 立

主の御名を讚美

新宿西教会 池田 茂子

第39回城北アシユラムが新宿西教会で開催されることになり、その日も近づいた頃、アシユラム誌を読んでは黙想し、毎週の祈祷会で学んでいる詩篇(19―14)から

「わが、あがないぬしなる主よ、どうか、わたしの口の言葉と心の思いがあなたの前に喜ばれますよう

に」と祈りつつ待ちました。

いよいよ当日、プログラムは肅粛と進行し、祈りの細胞の時を迎えました。与えられた貴重な何分間…。私は突然何の脈絡もなく、今まで決して口にしなかった夫への不満を訴え続けたのでした。

周章狼狽しながら、主がこの日備えて下さった祈りに耳を傾ける中「池田さんは神様を強く求めておられます」の声にすくっと落ち着きました。

今日は聴く日！内から囁く声が祈りの連鎖から充滿の時まで、イエス様の御名を通して祈り合う、恵みを語り合う喜びを分かち与えて頂き、信ずることと愛することはコインの表・裏の様に切っても切れないものであることを実感しました。

あれから一箇月余りが過ぎ二つの発見がありました。それが夫と二人だけの変わらない日々の生活を生き生きとさせてくれています。

行動も言葉もすっかり不自由になつてしまった夫の横顔を見上げながら、その忍耐強さ、何をするにも「ありがとう」と言ってくれる優しさに長い間気付かず、不機嫌な顔ばかり見せていて本当に「ごめんなさい」と声を出して見る今日この頃です。「これら、いっさいのものの上に愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。」(コロサイ3-14)

導いて下さった主に感謝し、主の御名を讃美します。

### 第42回九州アシユラムの恵み

#### 「ヤベツの祈り」

カン ミヨソソ

(小倉中央教会 短期宣教師)



ヤベツは彼の兄弟たちよりも重んじられた。彼の母は、「私が悲しみのうちにこの子を産んだから」と言つて、彼にヤベツと名づけた。ヤベツはイスラエルの神に呼ばわつて言つた。「私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。御手が私とともにあり、わざわいから遠ざけて私が苦しむことのないようにしてくださいますように」

で神は彼の願ったことをかなえられた。第1歴代誌4章9-10節

イエスは主なるの挨拶で始まるアシユラムに参加したのも今回を合わせ3回目となりました。私は小倉中央教会で短期宣教師として奉仕している韓国人のカンと申します。韓国では開いたこともなかったのですが、日本に来て一年一回、一泊二日の九州アシユラムがとっても好きになりました。毎年楽しみに待つほどになりました。

今回は、先回に来て下さった日

高兄弟が、また助言者として奉仕してください、ヤベツの祈りについて語って下さいました。ヤベツは悲しみのうちで生まれたが、兄弟たちの中で重んじられ、神に祈りをかなえられた。その祈りは大きなことを願うことではなく、私たちの日々の生活の中で起きる様々な出来ごとから守られるように願う祈りであることを教えて下さいました。毎日の祈りの中で、この祈りをしてはどうですかと、力強く語って下さいました。私も毎日の祈りの中でヤベツの祈りを覚え、祈っております。日々与えてくださる神様の恵みに心から感謝します。

今回の九州アシユラムはいつものようにグループに分かれ、分かち合いの時間を持つたり、食事後の交わり、連鎖祈禱をすることができま

した。「イエスは主なり」

毎回、九州アシユラムに参加され、私たちを励まして下さっていた鍋倉夏海姉(委員長鍋倉勲夫人)は、昨年10月24日、主のもとに召されましたことも、報告します。

### 第39回城北アシユラム報告

川村 秀夫

去る二月十一日(月・祝日)多くの教会から集められた五七名もの兄弟姉妹と共に第三九回城北アシユラムを新宿西教会で神様の恵みのうちに開かせて頂きましたことを先ず感謝いたします。路上の雪も溶け足下が守られたことも感謝でした。

開心の時は有馬歳弘さんが担当され、初めてアシユラムに参加する人が戸惑う「ニード」について、分かり易く丁寧に言葉の持つ意味とその概念を説明して頂きました。「今私を抱えている一番切実な事柄」を神様に打ち明け、直接導きを受けるために今日このアシユラムの場に臨んでいること、自分の殻を脱ぎ捨て心を開き主に聴き従うことから始めることを教えられました。

分団(細胞)の時、グループの人達に自分のニードをお話し、祈って頂くことの幸いを頂きました。ニードを話しているうちに自分のうちに何がしかの力が働いて今まで考え



ていたニードに変化が感じられましたが、このことは初めて参加された方も何回も参加された方も口をそろえて同じように話されました。

昼食は分団ごとに集まり、互いに交わりのときを深めることが出来まして感謝でした。特に阿佐ヶ谷教會の鈴木梓さん(参加者中で最高齢)の昔ながらの元気なユーモアたっぷりの挨拶をして頂き感謝でした。

静聴の時間は島津吉成さんが担当なされました。コロサイ人への手紙三章が示され、九ノ十節の「古

き人をその行いと一緒の脱ぎ捨て、・・・新らしき人を着たのである」のみ言葉を聴かせて頂き感謝でありました。

引き続き長谷川武国さんの司会で原田謙さんによる福音の時間が持たれました。「あなた方は世の光、地の塩」との主題でのメッセージを聴かせて頂きました。「世の光」とは自分自らが光を発しているわけではなくイエス様の光を私たちが反射させていること、そのためには私たちが一人一人が信仰を深め、そのことによって世に光を送ることが出来ることと教えられました。

また、「五人の思慮深いおとめ」(マタイ十五ノ十三)の話からランプを何時までも明るく灯すためには芯切ハサミで不要になつた芯を切り捨て、形を整え、新しい油を何時も補充する必要があることから、今の私たちの信仰生活のあり方や伝道の働きの上で不要なものは切り捨て、形を整えて新たな御言葉を絶えず注ぎ込むとき、世の光となり、地の塩となる事が出来ることを教わり大変に感謝でした。

充滿の時は横山義孝さんが担当され皆が円になって分かち合いのときを持ち、最後に三本指を立てて「イエスは主なり」とアシュラムの挨拶を三唱し、これからの信仰生活の出發の挨拶をしました。

## 消 息

### 恵みの便り

#### 祈りの家 横山勲・政子

昨年以來祈つていただきました祈りの家の集会所がこのたび与えられました。皆様の祈りとお支えに心から感謝申し上げます。もう一つ嬉しいニュースは、昨年初めてアシュラムに参加したMさんが昨年のクリスマスに受洗されたことです。体調は今ひとつですが、家族の方と共に礼拝を守っております。引き続きお祈りくださいようお願いいたします。九月のアシュラムをお待ちいたしつづ。

### 祈りで結ばれた私たち

#### 横浜岡村教会 田崎 民雄

私と郁代は昭和61年5月9日に横浜岡村教会で、梅沢幸太郎牧師の司式で結婚式をあげて頂きました。郁代と結ばれるまで試練がありました。最後はお互いに一週間祈つて神さまの導きを頂きますようと、話合いました。一週間後郁代さんから、「お受けします」と電話をもらいご両親の承諾を得て結婚となりました。それから子供を与えられ、横浜岡村教会の皆さんの祈りに支えられ、アシュラムにも娘と一緒に参加することが出来て感謝しています。

## 各地区アシュラム予告

### ●第42回関西アシュラム

とき '08年10月12日(日) 13日(月・祝)

ところ 母の家ベテル(御影駅近く)

助言者 後宮俊夫師

### ●第43回九州アシュラム

とき '08年9月22日(月) 23日(火・祝)

ところ 福岡黙想の家

助言者 日高範嘉師

### ●第46回関東アシュラム

とき '08年9月15日(月) 17日(水)

ところ 山崎製パン箱根山荘

助言者 木部安來師 佐野勇松師



各地区アシュラムの上に祝福を祈りつづ(Y)

〒一八一〇〇三 鹿市井口3-15-6  
池の上クリスト教会内  
日本クリスチャン・アシュラム連盟  
振替口座 東京〇一〇〇一-四五五八  
理事長 大石嗣郎